



平成 25 年 7 月 31 日
独立行政法人大学入試センター

資料の提供について

提供資料

- ・ 平成27年度大学入試センター試験出題教科・科目の出題方法等

参考

- ・ 平成27年度大学入試センター試験の概要

「平成 27 年度大学入学者選抜に係る大学入試センター試験実施大綱」（平成 25 年 7 月 30 日付 25 文科高第 328 号文部科学省高等教育局長通知）に基づき、「平成 27 年度大学入試センター試験出題教科・科目の出題方法等」を定め、高等学校、大学及び関係団体等へ通知した。

平成 27 年度大学入試センター試験の概要

1 出題教科・科目

平成 27 年度大学入試センター試験における数学及び理科については、下表のとおり、平成 21 年告示の高等学校学習指導要領（以下「新指導要領」という。）に基づき科目を出題する。

教科	グループ	出題科目
数学	①	「数学Ⅰ」, 「数学Ⅰ・数学A」
	②	「数学Ⅱ」, 「数学Ⅱ・数学B」
理科	①	「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」
	②	「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」

(注 1) 「グループ」はそれぞれ独立した試験時間帯であることを示す（以下同じ）。

(注 2) 数学及び理科以外の教科並びに数学②における「工業数理基礎」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」は、旧指導要領に基づき出題する。

2 数学, 理科の科目選択方法等

(1) 数学

数学①及び数学②は、試験時間各 60 分で各グループから 1 科目（100 点）を選択解答する。

(2) 理科

① 理科①及び理科②の計 8 科目のうちから、次の科目選択方法を出願時に申し出る。

科目選択方法
A : 理科①から 2 科目
B : 理科②から 1 科目
C : 理科①から 2 科目及び理科②から 1 科目
D : 理科②から 2 科目

② 理科①は、試験時間 60 分で 2 科目（計 100 点）を選択解答する。

③ 理科②は、最大 2 科目選択とし、1 科目選択の場合は試験時間 60 分、2 科目選択の場合は試験時間 130 分とする（1 科目 100 点）。

3 経過措置

数学, 理科については、下表のとおり、旧教育課程履修者に対する経過措置科目を出題する。

教科	グループ	経過措置科目
数学	①	「旧数学Ⅰ」, 「旧数学Ⅰ・旧数学A」
	②	「旧数学Ⅱ・旧数学B」
理科	②	「理科総合A」, 「理科総合B」, 「物理Ⅰ」, 「化学Ⅰ」, 「生物Ⅰ」, 「地学Ⅰ」

(注) 理科について、旧教育課程履修者は、新指導要領に基づく出題科目と経過措置科目のいずれかで受験するかを出願時に申し出る。

平成 27 年度大学入試センター試験出題教科・科目の出題方法等

教科	グループ	出題科目	出題方法等	科目選択の方法等	試験時間(配点)
国語		『国語』	「国語総合」, 「国語表現Ⅰ」の内容を出題範囲とし, 近代以降の文章, 古典(古文, 漢文)を出題する。		80分(200点)
地理歴史		「世界史A」 「世界史B」 「日本史A」 「日本史B」 「地理A」 「地理B」	『倫理, 政治・経済』は, 「倫理」と「政治・経済」を総合した出題範囲とする。	左記出題科目の10科目のうちから最大2科目を選択し, 解答する。 ただし, 同一名称を含む科目の組合せで2科目を選択することはできない。 なお, 受験する科目数は出願時に申し出ること。	1科目選択 60分(100点) 2科目選択 130分(うち解答時間120分) (200点)
公民		「現代社会」 「倫理」 「政治・経済」 『倫理, 政治・経済』			
数 学	①	「数学Ⅰ」 『数学Ⅰ・数学A』	『数学Ⅰ・数学A』は, 「数学Ⅰ」と「数学A」を総合した出題範囲とする。 ただし, 次に記す「数学A」の3項目の内容のうち, 2項目以上を学習した者に対応した出題とし, 問題を選択解答させる。 〔場合の数と確率, 整数の性質, 図形の性質〕	左記出題科目の2科目のうちから1科目を選択し, 解答する。	60分(100点)
	②	「数学Ⅱ」 『数学Ⅱ・数学B』 「工業数理基礎」 『簿記・会計』 『情報関係基礎』	『数学Ⅱ・数学B』は, 「数学Ⅱ」と「数学B」を総合した出題範囲とする。 ただし, 次に記す「数学B」の3項目の内容のうち, 2項目以上を学習した者に対応した出題とし, 問題を選択解答させる。 〔数列, ベクトル, 確率分布と統計的な推測〕 『簿記・会計』は, 「簿記」及び「会計」を総合した出題範囲とし, 「会計」については, 会計の基礎, 貸借対照表, 損益計算書, 財務諸表の活用の4項目の内容のうち, 会計の基礎を出題する。 『情報関係基礎』は, 専門教育を主とする農業, 工業, 商業, 水産, 家庭, 看護, 情報及び福祉の8教科に設定されている情報に関する基礎的科目を出題範囲とする。	左記出題科目の5科目のうちから1科目を選択し, 解答する。	60分(100点)
理 科	①	「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」		左記出題科目の8科目のうちから下記のいずれかの選択方法により科目を選択し, 解答する。	【理科①】 2科目選択 60分(100点)
	②	「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」には, 一部に選択問題を配置する。	A 理科①から2科目 B 理科②から1科目 C 理科①から2科目及び理科②から1科目 D 理科②から2科目 なお, 受験する科目の選択方法は出願時に申し出ること。	【理科②】 1科目選択 60分(100点) 2科目選択 130分(うち解答時間120分) (200点)
外国語		『英語』 『ドイツ語』 『フランス語』 『中国語』 『韓国語』	『英語』は, 「オーラル・コミュニケーションⅠ」及び「英語Ⅰ」に加えて「オーラル・コミュニケーションⅡ」と「英語Ⅱ」に共通する事項を出題範囲とする。	左記出題科目の5科目のうちから1科目を選択し, 解答する。	【筆記】 80分(200点) 【リスニング】 (『英語』のみ) 60分(うち解答時間30分) (50点)

- 備考 1 『 』内記載のものは、2つの科目を総合したもの又は2つ以上の科目に共通する内容を盛り込んだ出題科目とする。
- 2 「平成27年度大学入学者選抜に係る大学入試センター試験実施大綱」の別紙様式の「記入上の注意5」にいう『国語』の特定の分野は、「出題方法等」欄中の「近代以降の文章（2問 100点）、古典（古文（1問 50点）、漢文（1問 50点））」とする。
- 3 地理歴史及び公民の「科目選択の方法等」欄中の「同一名称を含む科目の組合せ」とは、「世界史A」と「世界史B」、
「日本史A」と「日本史B」、
「地理A」と「地理B」、
「倫理」と『倫理、政治・経済』及び「政治・経済」と『倫理、政治・経済』の組合せをいう。
- 4 地理歴史及び公民並びに理科②の試験時間において2科目を選択する場合は、解答順に第1解答科目及び第2解答科目に区分し各60分間で解答を行うが、第1解答科目及び第2解答科目の間に答案回収等を行うために必要な時間を加えた時間を試験時間とする。
- 5 理科①については、1科目のみの受験は認めない。
- 6 外国語において『英語』を選択する受験者は、原則として、筆記とリスニングの双方を解答する。
- 7 リスニングは、音声問題を用い30分間で解答を行うが、解答開始前に受験者に配付したICプレーヤーの作動確認・音量調節を受験者本人が行うために必要な時間を加えた時間を試験時間とする。

○ 旧教育課程履修者に対する経過措置

- 1 平成 27 年度大学入学者選抜に係る大学入試センター試験では、平成 21 年 3 月に告示された高等学校学習指導要領（以下「新指導要領」という。）が一部先行実施されたことに伴い、数学及び理科の 2 教科に関しては、新指導要領に基づく試験を、その他の教科については、平成 11 年 3 月に告示された高等学校学習指導要領（以下「旧指導要領」という。）に基づく試験をそれぞれ実施することになる。

このことから、数学及び理科の 2 教科に関しては、平成 27 年度大学入試センター試験の全ての受験者は、新指導要領に基づく教科・科目の内容による試験を受験するのが原則であるが、旧教育課程履修者に対しては次のような経過措置を講じることとし、旧教育課程履修者のうち希望する者が、この経過措置により受験できるものとする。

〔科目単位での経過措置〕

旧教育課程に基づく「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」、「理科総合A」、「理科総合B」、「物理Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」及び「地学Ⅰ」は、旧教育課程履修者のための出題科目として残し、従前と同様の試験時間、配点により出題する。

なお、新指導要領に基づく教育課程履修者（以下「新教育課程履修者（数学、理科）」という。）は、これらの旧教育課程により出題する科目を選択解答できない。

- 2 経過措置としての出題方法、科目選択の方法等は、別表のとおりとする。

（注）

新教育課程履修者 (数学, 理科)	<p>① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。以下同じ。）に平成 24 年 4 月に入学し、数学、理科に関し新教育課程を履修し、平成 27 年 3 月卒業見込みの者</p> <p>② 中等教育学校の後期課程に平成 24 年 4 月に進級し、数学、理科に関し新教育課程を履修し、平成 27 年 3 月卒業見込みの者</p>
旧教育課程履修者	<p>上記以外の者</p> <p>* 高等学校等卒業生、高等学校卒業程度認定試験合格者又は合格見込者、大学入学資格検定合格者、高等専門学校第 3 学年修了者又は修了見込者、外国の学校等修了者又は修了見込者、在外教育施設修了者又は修了見込者、及び高等学校等を平成 27 年 3 月卒業見込みであるが、入学は平成 24 年 3 月以前の者など、上記に該当しない者</p>

※ 「新教育課程」とは、平成 25 年 4 月 1 日から適用された高等学校学習指導要領（平成 21 年文部科学省告示第 34 号）に基づく教育課程及び平成 21 年 3 月 9 日文部科学省告示第 38 号の特例により定められた教育課程をいい、「旧教育課程」とは、従前の高等学校学習指導要領に基づく教育課程をいう。

(別表)

経過措置としての出題方法等

教科	グループ	新教育課程により出題する科目	旧教育課程履修者に対する経過措置		
			旧教育課程により出題する科目	出題方法	科目選択の方法等
数 学	①	「数学Ⅰ」	「旧数学Ⅰ」	新教育課程により出題する「数学Ⅰ」に加え、旧教育課程による「旧数学Ⅰ」を別科目として出題する。	新教育課程による出題科目と旧教育課程による出題科目を合わせた4科目のうちから1科目を選択解答する。
		「数学Ⅰ・数学A」	「旧数学Ⅰ・旧数学A」	新教育課程により出題する「数学Ⅰ・数学A」に加え、旧教育課程による「旧数学Ⅰ・旧数学A」を別科目として出題する。	
	②	「数学Ⅱ」		特に措置しない。	
		「数学Ⅱ・数学B」	「旧数学Ⅱ・旧数学B」	新教育課程により出題する「数学Ⅱ・数学B」に加え、旧教育課程による「旧数学Ⅱ・旧数学B」を別科目として出題する。	
理 科	①	「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」		新教育課程により出題する「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」に加え、旧教育課程による「理科総合A」, 「理科総合B」, 「物理Ⅰ」, 「化学Ⅰ」, 「生物Ⅰ」, 「地学Ⅰ」を別科目として出題する。	次のア、イのいずれかを選択し、解答する。 ア 1 ページの表中に示す新教育課程による出題科目の選択方法A~Dのいずれかの方法により選択解答する。 イ 旧教育課程により出題する科目の6科目のうちから最大2科目を選択解答する。 なお、受験する科目の選択方法(上記アの場合)又は受験する科目数(上記イの場合)は出願時に申し出ること。
	②	「物 理」 「化 学」 「生 物」 「地 学」	「理科総合A」 「理科総合B」 「物理Ⅰ」 「化学Ⅰ」 「生物Ⅰ」 「地学Ⅰ」		

(注) 旧教育課程履修者は、理科において、新・旧の異なる教育課程の科目を組み合わせることはできない。